

Seminar 1

生成AIのトリセツ

医療現場で“本当に使える”生成AIとは？

社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院 副院長
草深 裕光



Seminar 2

電子カルテデータ連携

× AIエージェントで

病院経営はこう変わる

100病院以上の実践から見える現在地と未来

Ubie株式会社 医療機関事業本部長
西村 里穂

第28回 日本医療マネジメント学会学術総会

ランチョンセミナー 21

企業展示にも
ぜひお越しください

2026年5月30日(土) 12:25 - 13:15

会場 G会場 (ポートメッセなごや コンベンションセンター3F コンベンションホールA4)

座長 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 院長 佐藤 公治



生成AIのトリセツ

医療現場で“本当に使える”生成AIとは？

生成AIが注目される一方で、「医療現場では実際にどう使うのか」「本当に業務は変わるのか」という疑問も多い。本講演では、電子カルテPCから誰でも利用できる医療機関専用生成AI「Ubie生成AI」を全職種で活用している500床規模の総合病院の実践例を紹介する。当院では、文書作成、画像ファイル認識(AI-OCR)、音声認識などのマルチモーダル機能を活用し、各職種のサマリや紹介状の下書き、診療情報提供書や薬剤情報、問診票のテキスト化、事務文書作成やSQL生成など、多職種の日常業務に生成AIを組み込んできた。さらに、電子カルテデータとDWHを連携した生成AI-DWH連携基盤(GAID)を構築し、入院患者の診療記録統合、医療文書作成、AIによるDPC自動コーディングなど、業務効率化だけでなく病院経営にも直結する活用へと発展している。本セミナーでは、医療用生成AIの安全な運用方法、現場で定着させるためのポイント、生成AIが医療現場の働き方や病院経営に与えるインパクトについて、実際の画面や運用例を交えながら“トリセツ”としてわかりやすく解説する。

生成AIは特別な技術ではなく、医療現場の日常業務を支える新しい“道具”になりつつある。本講演が、明日からの病院DXを考えるヒントとなれば幸いである。

社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院 副院長 草深 裕光

電子カルテデータ連携 × AIエージェントで 病院経営はこう変わる

100病院以上の実践から見える現在地と未来

生成AIの医療応用は実証段階から実装段階へと移行しつつある。当社は100施設以上の急性期病院(大学病院10施設以上を含む)に対し生成AIプロダクトの導入を支援し、文書作成時間の大幅短縮やDPCコーディング支援による収益改善など、病院経営への具体的インパクトを実証してきた。本講演では、プロダクト開発を行うベンダーの視点から3つのメッセージを提示する。第一に、電子カルテデータ連携のハードルは想定ほど高くないという点である。主要電子カルテベンダーにおいて連携実績は既に豊富にあり、導入障壁は急速に低下している。第二に、電子カルテデータと連携した生成AIは診察場面に限らず汎用的に活用できるという点である。病院業務は診察だけではない。議事録、治療計画策定、研究や分析まで幅広い業務をカバーできることこそが生成AIの真価である。第三に、生成AIはAIエージェントへ進化するという点である。患者情報や医療従事者自身のコンテキストを理解し能動的に行動するAIエージェントは、医師向け・患者向け・経営者向けの3つの形態で展開され、これらが統合的に機能することで患者中心医療と持続可能な病院経営の両立が現実のものとなる。本講演が、生成AI活用の第一歩を踏み出す、あるいは既存の取り組みを加速させる気づきをお持ち帰りいただける場となれば幸いである。

Ubie株式会社 医療機関事業本部長 西村 里穂